

研究協力をお願い

昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

25 ゲージトロッカーを併用した眼外鑷子ガイド法による眼内レンズ強膜内固定術の検討	
1. 研究の対象および研究対象期間	2022年3月から2023年12月に昭和大学病院附属東病院で25ゲージトロッカーを併用した眼外鑷子ガイド法による眼内レンズ強膜内固定術を施行した患者さん
2. 研究目的・方法	<p>水晶体嚢が十分に機能しない症例に対する眼内レンズ(intraocular lens: IOL)固定法として、IOL支持部を強膜に埋没固定する強膜内固定術が近年急速に普及しつつあります。</p> <p>強膜内固定術には様々な方法が報告されていますが、我々はIOL後方支持部を眼外から直接誘導することにより、従来よりも簡便に手術を施行可能な方法である、眼外鑷子ガイド法を考案し、過去に報告しました。</p> <p>強膜内固定術においては硝子体手術を併用することが一般的ですが、通常はIOL支持部を抜き出す創口に加えて硝子体手術創の計5か所に強膜創が必要になります。しかし、IOL支持部を抜き出す創口と硝子体手術に用いる創口を共用することで、創口を減少させることができ、より低侵襲な手術が施行可能となります。そこで今回、眼外鑷子ガイド法による眼内レンズ強膜内固定術において25ゲージトロッカーを併用し、IOL支持部を硝子体手術創から抜き出す変法を行い、その手術成績を検討します。</p>
3. 研究期間	昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2024年12月31日まで
4. 研究に用いる試料・情報の種類	手術時間、術後視力、角膜内皮細胞密度減少率、術後屈折誤差、IOL偏心・傾斜、術中・術後合併症
5. 外部への試料・情報の提供	該当いたしません
6. 研究組織	研究責任者 研究機関名 昭和大学病院附属東病院 氏名 浅野泰彦

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院 氏名：浅野泰彦

住所：東京都品川区西中延 2 -14-19 電話番号：03-3784-8553